

---

[成果情報名] チャの害虫クワシロカイガラムシの天敵チビトビコバチとサルメンツヤコバチの発生活長

[要約] 福岡県の慣行防除茶園におけるクワシロカイガラムシの主要な寄生蜂は、チビトビコバチ、サルメンツヤコバチである。チビトビコバチは寄生幼虫ふ化最盛期の約一週間前と雄成虫羽化期に、サルメンツヤコバチは寄生幼虫ふ化約一週間後に発生のピークがみられる。

[キーワード] クワシロカイガラムシ、チビトビコバチ、サルメンツヤコバチ、寄生蜂

[担当部署] 八女分場・茶チーム

[連絡先] 0943-42-0292

[対象作物] 茶

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 生理生態

---

[背景・ねらい]

茶園の重要害虫であるクワシロカイガラムシには、寄生性または捕食性の土着天敵が生息し、クワシロカイガラムシの密度抑制要因として有効に働いている。これまで福岡県の茶園における天敵相については調査が行われていない。そこで、これら天敵類の種類や発生活長を明らかにし、天敵類を保護、活用した防除体系確立のための基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 茶株内に設置した粘着トラップに捕獲されるクワシロカイガラムシの天敵は、チビトビコバチやサルメンツヤコバチなどの寄生蜂と捕食性のタマバエ類などである（表1）。
2. チビトビコバチ成虫は、クワシロカイガラムシ幼虫ふ化最盛期の約一週間前と雄成虫羽化期に発生のピークがみられる（図1）。
3. サルメンツヤコバチ成虫は、クワシロカイガラムシ幼虫ふ化最盛期の約一週間後に発生のピークがみられる（図1）。
4. タマバエ類の成虫は、5月から10月にかけて発生がみられる（データ省略）。
5. 福岡県の慣行防除茶園から採取したクワシロカイガラムシ雌成虫から羽化する天敵寄生蜂の種類や種構成はクワシロカイガラムシの発生世代や調査場所によって変化するが（一部データ省略）、チビトビコバチが第一優占種である（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 防除の手引きに登載し、土着天敵の保護活用による生物的防除の基礎資料として活用する。
2. 主要な寄生蜂成虫が活動するクワシロカイガラムシ幼虫ふ化最盛期の一週間前後は、天敵類への影響が小さい薬剤（福岡農総試研報25号参照）を選択して散布する等の工夫が必要である。

[具体的データ]

表1 粘着トラップに捕獲された天敵類とクワシロカイガラムシ雄成虫 (平成17年)

	場内(黒木町) (頭)	A園(八女市) (頭)	B園(八女市) (頭)	C園(八女市) (頭)
チビトビコバチ	353	168	168	277
サルメンツヤコバチ	1	7	306	178
ナナセツトビコバチ	0	2	5	1
タマハエ類	33	16	36	88
クワシロカイガラムシ雄成虫	1,358	614	567	2,913

- 注) 1. 白色粘着トラップ一枚 (10cm×20cm) 当たりの年間捕獲数。  
 2. 粘着トラップは摘採面下5cmに取り付け、1週間おきに取り替えた。  
 3. 八女市のA、B、C園は同一団地内の茶園。  
 4. 化学防除資材の年間のべ使用成分数(うち殺菌剤)は、場内17(4)、A園22(3)、B園13(2)、C園16(2)。

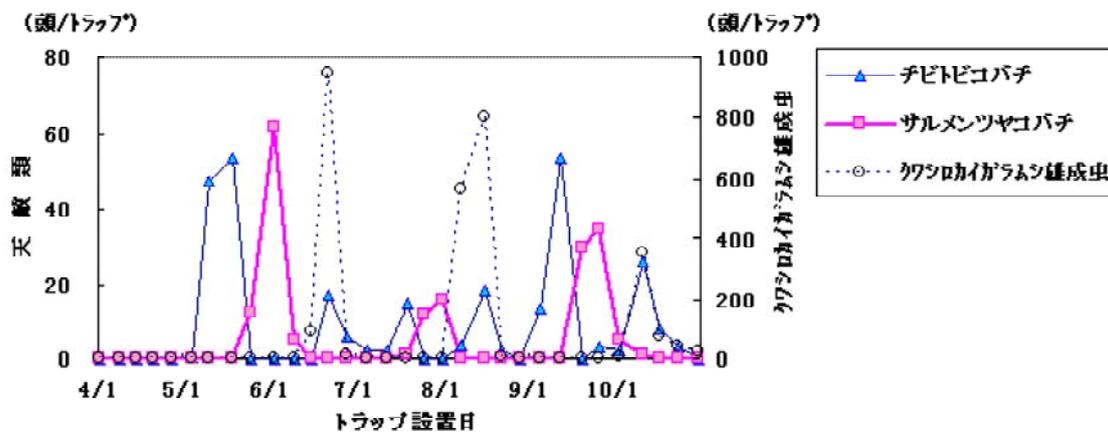


図1 チビトビコバチとサルメンツヤコバチの発生消長 (八女市、平成17年)

注) 調査年のクワシロカイガラムシ幼虫発生盛期は、第一世代が5月20日、第二世代が7月27日、第三世代が9月21日である。

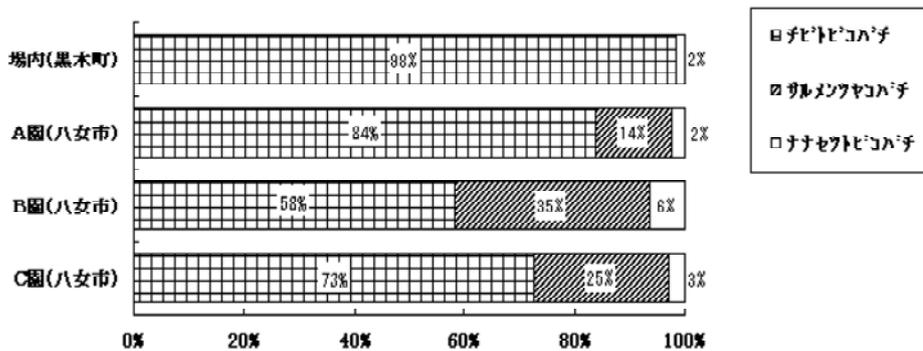


図2 越冬世代雌成虫から羽化した天敵の種構成 (平成17年)

[その他]

研究課題名：茶減農薬防除体系の確立

予算区分：経常

研究期間：平成17年度 (平成16～18年)

研究担当者：吉岡哲也、中村晋一郎、久保田朗、堺田輝貴